



2018.05 / Vol. 36 / Soccer Journal デュッセルドルフ生活を楽しくするマガジン

フォルトウナ通信

FORTUNA AKTUELL - Japanese Version



ブンデスリーガ1部昇格!!

MEISTER DER 2. BUNDESLIGA





premiumPARTNER

ようこそブンデスリーガ1部へ



50€

サマータイヤ 4本お買い上げで
€50までのガソリンパウチャーをプ
レゼント

イベント期間: 2018年4月1日~2018
年5月31日まで

お買い上げ後、www.toyo.de/tankgutschein からご登録ください

TOYO TIRES
driven to perform

「フォルトゥナはこの街に暮らすみんなのクラブ」

Liebe japanische Freunde von Fortuna Düsseldorf

瀬田元吾 / フォルトゥナ・デュッセルドルフ日本デスク

Gengo Seta, Fortuna Düsseldorf Japan Desk

日頃より温かいご声援をいただき、誠に有難うございます。2017/18シーズンが終了いたしました。まずは皆様に今シーズンの2部リーグ優勝及び、来シーズンのブンデスリーガ1部昇格をご報告させていただきます。

フォルトゥナにとっては6年振り6回目の1部リーグ昇格となりますが、フリードヘルム・フンケル監督にとっても自身6度目となる1部昇格になり、“6尽くしの昇格”となりました。先日はデュッセルドルフ市庁舎前の広場で、1万5千人を超える多くのファンの方々とともにこの昇格をお祝いさせていただきましたが、フォルトゥナにとっても、そしてデュッセルドルフ市にとっても、非常に喜ばしいニュースになったかと思いません。

私個人としても、クラブのフロントスタッフとして10年目を迎えた今シーズン

に、このようなメモリアルな瞬間を過ごせたことを大変光栄に思っております。昨シーズン、そして一昨シーズンは、終盤まで残留争いに巻き込まれ、その中でクラブ丸となって歯を食いしばって踏みとどまってまいりましたが、そのときの“踏ん張り”が今年のチームの土台となり、素晴らしい一体感を持ってこの1年間を戦い抜くことができました。そしてその中で、昨年の夏には宇佐美貴史、また今年の冬には原口元気という、日本を代表するトップ選手をチームに迎えることができ、彼らの活躍とともにこの昇格を掴み取ることができたことは、一人の日本人として非常に誇らしいことと思っております。

また大変有り難いことに、今では多くの日系企業の方々にご支援いただけるようになりましたが、それだけでなくスタジアムでも毎試合のように多くの

日本人サポーターの姿を目にすることができるようになりました。そんな日本人のフォルトゥナファンの皆様とともに、この2部リーグ制覇と1部リーグ昇格を分かち合えたことは、何にも変えがたい喜びとなりました。改めてクラブチームスタッフ一同を代表して、心より御礼申し上げます。

いよいよ今年の夏からは、このデュッセルドルフにあの熱狂的なブンデスリーガが戻ってきます。バイエルンが、ドルトムントが、シャルケが、そのほか多くのドイツのトップクラブが、この街にやっけてまいります。しかしフォルトゥナはこの街に暮らすみんなのクラブです。是非とも来シーズンも“我が街のクラブ”へ、これまでと変わらない応援をお願いいたします。スタジアムで一人でも多くの日本人サポーターの姿を見かけることを楽しみにしております。



Impressum



Herausgeber 発行元:
Fortuna Düsseldorf 1895 e.V.
Pflinger Broich 87
40235 Düsseldorf

Leitung 情報管理:
Thomas Gassmann
(medien@f95.de)

Chefredaktion 編集長:
Gengo Seta
(japandesk@f95.de)

Fotos 写真:
Christof Wolff, Gengo Seta

Layout レイアウト:
Christian Lewandowski

Druck 印刷:
Clasen GmbH

6度目のブンデスリーガ1部昇格決定!

Der sechste Bundesliga-Aufstieg ist perfekt!

32. Dresden 1-2 F95



今シーズンのフォルトゥナは、第3節に1部リーグ昇格圏内である3位となってから、一度もトップスリーから順位を落とさずに上位争いを演じてきた。そして第32節のディナモ・ドレスデン戦で2-1の勝利を収めた結果、シーズン2試合を残して2位以内を確定させ、これにより6年振り6度目のブンデスリーガ昇格が決定することとなった。

今年のブンデスリーガ2部は18チーム全ての力が拮抗したリーグだった。上位チームも下位チームも関係なく、毎節勝敗によって順位が入れ替わる、まさに激戦のシーズンとなったが、その中でもフォルトゥナは、開幕から3試合を消化した時点で3位を確保すると(1位・2位は自動昇格、3位は1部16位と入れ替え戦)、その後一度も“トップスリー”から順位を落とすことなく、第32節のアウエーでのドレスデンを迎えていた。

この試合で勝利することで2位以内を確定することができるフォルトゥナは、宇佐美貴史、原口元気日本人コンビもスタメンに名を連ねてキックオフを迎えた。すると開始早々の7分、スローインからボールを受けたマルセル・ゾボットウカが素早く中央のフーリアン・ノイハウスへパスを送ると、そのままドリブルで持ち上がったノイハウスが、ペナルティエリア外から左足を一闪。する

とボールはドレスデンゴールに吸い込まれ、幸先良くフォルトゥナが先制点を奪うことに成功する。

しかし前半を1点リードで折り返したフォルトゥナだったが、後半はドレスデンに幾度となく危ないシーンを作られると、64分にはカウンター攻撃から同点ゴールを奪われてしまう。その後は両チームともに決定機を作るも、なかなかゴールネットを揺らすことができずに時間が過ぎていく。

そして同点のまま迎えたロスタイム、ついにその瞬間が訪れることに。素早いカウンター攻撃を仕掛けたフォルトゥナは、ノイハウスからロウヴェン・ヘニングスへラストパス。そしてエースが左足で強烈なミドルシュートを放つと、これが相手GKの右脇を抜けてゴールイン。結局この劇的なロスタイム弾が決勝点となり、2-1でアウエー勝利を収めたフォルトゥナが、今シーズンの2位以内を自力で確定させ、これによりあと2試合を残して、ブンデスリーガ1部昇格が決定することとなった。



33. F95 1-1 Kiel



大逆転勝利で2部リーグ制覇!

Meisterschaft dank Last-Minute-Sieg

前節のドレスデン戦で2位以内を確定させたフォルトゥナは、ホーム最終戦となったホルシュタイン・キール戦を1-1で引き分けたのち、最終節ではフォルトゥナに続いて1部昇格を確定させた1.FCニュルンベルクと対戦。試合は立ち上がりには2失点を許すも、宇佐美とニコ・ギーゼルマンの得点で同点に追いつくと、後半ロスタイムに決勝点を奪うことに成功。これにより大逆転でリーグ優勝を達成することとなった。

昨年のドイツ杯ボルシアMG戦以来、5万枚がソールドアウトとなったホーム最終戦の相手は、3部リーグから昇格してきたばかりながら3位で入れ替え戦に進むこととなったホルシュタイン・キール。圧倒的な攻撃力を誇る相手との対戦は、開始早々から激しい攻防戦となる。試合が動いたのは75分、途中投入されたベニート・ラマンがヘニングスからのパスを流し込み、均衡を破ることに成功する。しかし喜んだのも束の間、その2分後には同点ゴールを奪われ、結局この一戦は1-1の引き分けとなった。

今シーズン最終戦は、フォルトゥナ同様にすでにブンデスリーガ1部への昇格を確定させた1.FCニュルンベルクとの対戦に。獲得勝ち点数で並ぶも、得失点差でフォルトゥナをわずかに上回る相手と、まさにリーグ優勝を懸けた戦いに挑むこととなったフォルトゥナだったが、試合は立ち上がりの5分と13分に立て続けに失点してしまふ。それでもそこからスイッチの入ったフォルトゥナは、原口、ヘニングスが続け様に決定機を作ると、37分には宇佐美が技ありのヘディングシュートを決め、1点差と

してハーフタイムを迎えることとなる。

後半に入り、さらに攻勢に出るフォルトゥナは59分、ギーゼルマンが芸術的なミドルシュートで同点に追いつくと、ドラマは再びロスタイムに待っていた。左サイドからのセンタリングにカーン・アイハンが頭で合わせると、ボールはワンバウンドしながらニュルンベルクゴールへ。結局これが決勝点となり、3-2の大逆転勝利を収めたフォルトゥナが、文句なしのブンデスリーガ2部王者となることが決定した。

34. Nürnberg 2-3 F95



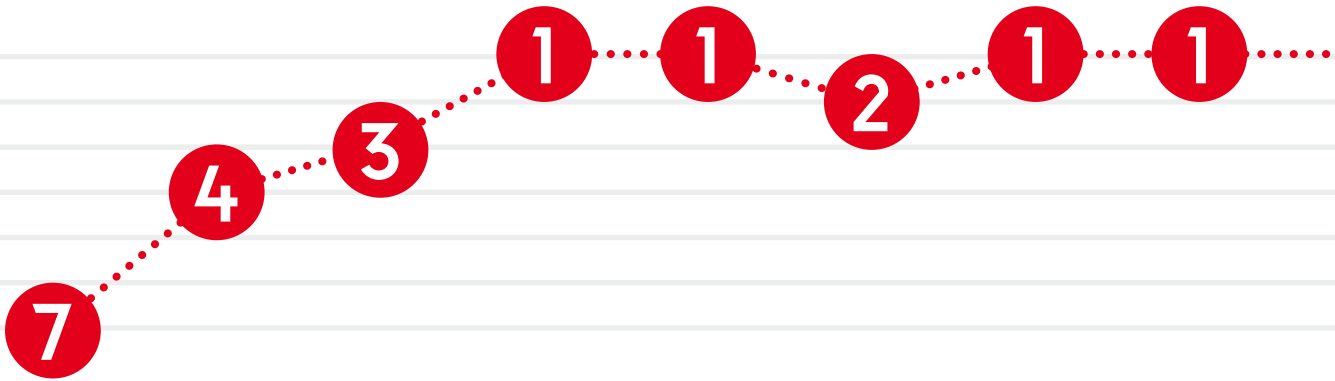
1. F95 2-2 Braunschweig



4. F95 2-0 Kaiserslautern



1 節 2 節 3 節 4 節 5 節 6 節 7 節 8 節



5. F95 3-2 Union Berlin



6. Greuther Fürth 3-1 F95



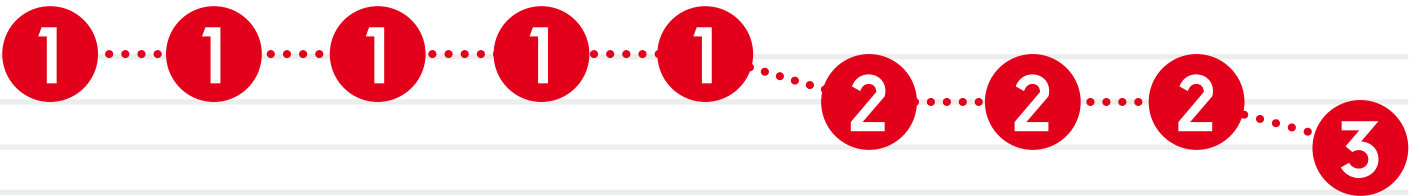
7. F95 1-0 Regensburg



8. St. Pauli 1-2 F95



9 節 10 節 11 節 12 節 13 節 14 節 15 節 16 節 17 節



11. F95 1-0 Darmstadt



14. Ingolstadt 1-0 F95



12. Bochum 0-0 F95



17. F95 0-2 Nürnberg





18節 19節 20節 21節 22節 23節 24節 25節 26節



26. F95 2-1 Duisburg



27 節 28 節 29 節 30 節 31 節 32 節 33 節 34 節



27. F95 4-2 Bielefeld



29. F95 1-2 Bochum



30. Heidenheim 3-1 F95



31. F95 3-0 Ingolstadt



FORTUNA D

#WIRSIND



ÜSSELDORF

WIEDERDA



FORTUNA MEETS JAPAN



FORTUNA JAPAN TRIO

金城ジャスティン俊樹

24 / Justin Toshiki Kinjo

原口元気

25 / Genki Haraguchi

宇佐美貴史

33 / Takashi Usami

金城x原口x宇佐美 Kinjo x Haraguchi x Usami

2017/18シーズンのフォルトウナは、まさに“日本人フィーバー”だった。サイン会を開けば長蛇の列となり、試合でも宇佐美、原口の両選手は大車輪の活躍。若手の金城も日々のトレーニングで2人から多くの刺激を受け、U23チームで得点を決めるなど経験を積んだ。そんな“フォルトウナ日本人トリオ”に、今シーズンを振り返ってもらった。

*文中の表記は、金城ジャスティン俊樹:ジャスティン・J / 宇佐美貴史:タカシ・T / 原口元気:ゲンキ・G

今シーズンの最初、日本人としてはジャスティン1人だったわけだけど、タカシが加入すると聞いたときどうだった？

J: タカシくんが来ると聞いたときは単純に嬉しかったです。一緒にプレーすることでそこから色々なことが学べると思いました。

G: そうなんだ、でもそんなに学ぶところなんてなかったでしょ(笑)

T: 何言っているんだよ、学ぶとこだらけだったでしょ？

J: (笑)とにかく一緒にできることが楽しみでしたよ。

タカシはフォルトウナに加入してすぐにデビューを迎えたわけだけど、そのときはどんな気持ちだった？

T: なんだろう。でもどれだけ早く自分のコンディションをトップに戻せるかなって思っていました。

そのデビュー戦(ユニオン・ベルリン戦)でいきなりゴールを決めたよね。

T: 俺ってやっぱ持ってるなって思いましたね。これまでも結構、そういう節目の試合では決めていたので、相変わらずの勝負強さやなって。それに、どうせ決められないだろうなと思いがらやるとうまく決まったりするんで。しかもあの試合、ギリギリで逆転勝ちしたじゃないです

か(*ロスタイムの勝ち越しゴールで3-2の勝利)。あそこから一気に連勝が続いていったから、その勢いを作ることができたかなって思いますね。

前期はなかなかスタメンに定着できない日々だったけど、どんなきっかけで後半戦の好パフォーマンスにつながったのかな？

T: (前期は)何か変えなくちゃとはずっと思っていました。コンディションがなかなか上がらない中で、どうすればいいのか考えていたタイミングで冬のオフに入って。そこで一回日本に帰って、改めてしっかりと自分を見直すことができました。運良く(自分に必要な)人との出会いもあったりして。そこからちょっとずつ食事の食べ方を変えてみたり、色々変化をもたらしていった結果、身体からの反応も良かったりして。そういうインターバル期間での取り組みが良い形の積み重ねになって、後半のパフォーマンスにつながっていったというのはあります。

「やっぱ持ってるなって(宇佐美)」





「一緒にプレーするつもりで来たところがありました(原口)」

2部リーグで戦うタカシの様子を、移籍して来る前のゲンキはどう見てたかな？(フォルトウナへの)移籍を決断する上で、タカシの存在は大きかった？

G: 俺もここへは自分で決断して来たんですけどね。もちろん(2部に移籍することに)抵抗がなかったわけではないですけど。そういう中でタカシが強い覚悟で(半年前に)2部移籍を決めて、その中でやっているというのは感じていたし、そういうのを見ていたというのもあって、自分も覚悟を持ってここに来ることを決めたってのはありますよね。

(タカシに続いて)ゲンキも来るって決まったとき、ジャスティンはどう思ったかな？

T: 「ハラグチ来るらしいっすよ」って呼び捨てだったよな？「Instagramでハラグチがフォルトウナをフォローしたらいいですけど、本当に来るんですか？」って言ってたもんな。

J: (笑)でも宇佐美くんも含めて、元々僕にとっては呼び捨てしちゃうくらい、2人も遠い存在でしたから。やっぱり来るってなったときは嬉しかったです。

報道で(はゲンキとタカシの)ポジションが重なるのでは、なんて書かれていたけど。

T: どうだろう、でもすぐに(ゲンキくん)に連絡したら、「半年頼むわ」って感じで。ポジション被ってるやん、ってことは不思議とあんまり思わなかったですね。チームにとってプラスになるだろうし、とにかく良い選手が来るなって感じでしたね。しかもゲンキくん来てすぐの試合で自分がゴールを決めれて。あー、これはここにいらってことだなって思ってた。

ゲンキが加入して、すぐに(途中交代で)2人揃ってピッチに立ったわけだけども。

G: 俺はとにかくサッカーがしたかったんで。サッカーするためにここに来たし、だから久しぶりにサッカーできて楽しかったし、タカシも一緒に出て良かったですよね。それにここに来る前に(フンケル)監督と話したときに、タカシが右で俺が左で考えているって言われてましたから。最初からそのイメージで、一緒にプレーするつもりで来たところがありました。

T: え、俺はそんなの聞いてなかったけど。(冬のキャンプ後は)トップ下やるイメージも少しあったんですけどね(笑)。

ゲンキはフォルトウナで良いスタートを切った中での(3試合目での)脳震盪だったよね。

G: まあでもあれは事故ですから。怪我したあとの1ヶ月はほんとしんどかったけど。でも過ぎちゃえば、ただの事故だったという感じです。



「あ、ここ正念場やな(宇佐美)」

ゲンキが負傷離脱した直後からタカシの4試合連続ゴール(+2アシスト)になるんだけど、何かきっかけはあったのかな？

T: ゲンキくんが離脱してすぐのフルト戦で右サイドで途中出場してゴールを決めたんです。その次の試合でスタメンのチャンスをもたらったんですけど、「あ、ここ正念場やな」って。ゲンキくんが怪我から戻って来れば左サイドで出ると思ってましたし、ここでしっかりと右サイドのポジションを固めなくちゃなど。そういう良い緊張感を持って挑んだ結果、1ゴール1アシストを決めることができました(*試合は3-4で敗戦)。結局そこから4試合連続ゴールとなったので、ヨシヨシって感じでしたね。

主力に定着していく2人をジャスティンはどう見ていたかな？

J: 自分自身がなかなか試合に絡めなことが悔しかったです。でもとにかく日々の練習で2人からいろいろなことを学べたのは大きかったかなと。

T: 具体的にどういうところが勉強になったの？

J: サッカー面で言えばシュートの技術とか。とにかく一緒にやらせてもらうだ

けでもすごく勉強になってました。いつか彼らようになりたいとは思ってますから、2人の存在や活躍は、常に僕のモチベーションになってました。

「2人からいろいろなことを学べた(金城)」



G: でも本当にこの半年、楽しかったよね。ロッカー内もそうだし、それ以外でもみんなでお食事したりね。

2人からアドバイスしてもらったことは？

J: 練習中からいっぱい言ってくれてましたし、それは本当に有難いことでした。今までドイツに来てからそういうことはほとんどなかったの。

G: ジャスティンは基本的な技術はしっかりしているから。それがベースだと思うし、プラスアルファで力強さとか、球際で(ボールを)取りきるというか。それができていれば技術的にはこのチームでもチャンスはあったかなと。まあ強いて言えば、明確な武器が1つ2つあればいいかなと思いますね。

T: それはほんと同感。潰しにいくときはガッツリいくとか。50:50のボールをしっかり取りきる姿勢は大事。どうしても球際で(ジャスティンの)優しさが出ちゃうときがあるから。それができればジャスティンは走れるしボールもさばけるし。あとはミドルシュートを打てるというかな。ボールをさばくタイプの選手は、(ミドル)シュートがあると思われるかそうじゃないかで、相手の寄せ方も変わってくるし、そうすればまた別のパスコースも生まれたりするので。そういうところを意識してやっていくといいと思います。



「仲が良かったし、一体感があった(金城)」

チームの話に戻るけど、シーズン終盤に昇格が見えてきたところで3連敗があったよね。

T: 俺は(一度G大阪に戻ったときに)J2での経験があるので。そこでJ1昇格を経験したけど、必ず昇格を前にそういう感じになるって思っていたというか。絶対勢いだけでは最後まではいけないとは思ってましたけど、3連敗したあとのインゴルシュタット戦で勝てれば、きっと大丈夫って思うところはありました。ニュルンベルクやキールとの差も、シーズン通じて開いたり縮んだりしてましたけど、正直どこのチームも抜きん出た力の差があるわけではなかったの。とにかくこうなると思っていたので、(3連敗してしまったことも)驚くことではなかったです。

G: 正直なところ、今シーズンの勝った試合と負けた試合で、そんなに大きな差はなかったかなとは思いますがね。でもまあ、インゴルシュタット戦は監督も少しピリピリしていたというか、いつもよりももっとやれという感じはありました。それに選手からもいつも以上に頑張る姿勢が見れたし、それがいい結果につながったかなと。ああいう大事な試合で勝つことができたというのが昇格に値するのかなと思います。

今年のチームが昇格を掴めた要因は何か?

T: まず今年のチームの選手はクオリティが高かったと思います。その中で若い選手たちの勢いを、ポツツエ(アダム・ポツツ

ェック)やオリー(オリバー・フィンク)がうまくコントロールしていて。ベテランもサボる選手がいなかったし、とにかく選手それぞれのキャラクターが良かったです。それが結果につながった要因の1つだとは思いますが。

G: このチームに来たときの最初の第一印象は、若い選手も多し、みんなすごく大人

しいなって。でもその分、みんな真面目というか、しっかり練習やっているイメージがあって。そういうことが結果につながったと思いますね。

J: 僕はこのクラブで3シーズン目になりませんが、今年は選手がみんな仲が良かったし、一体感があったというか。前の2シーズンは少し輪を乱す選手がいたけど、今のチームにはそういう選手もいなかったし、とにかくいい雰囲気だったと思います。

今シーズンの個人的なハイライトは。

T: やっぱりデビュー戦のゴールかな。やっぱりあのゴールでいい感じで(チームに)入ることができたのは大きかったと思います。

G: 特にこれっていうのを挙げるのは難しいけど、3連敗後のインゴルシュタット戦で早い時間帯に先制点をアシストできたことかな。その前の負けた3試合は全て先制されていただけに、この試合でも先制されると難しい空気になっちゃうかなと思っていたので。そんな中で早い時間帯に先制点を奪えたという意味でも、大事なゴールだったかなと思います。まあ、俺のゴールではなくて、あくまでもアシストですけどね。

J: 僕はトップチームの試合には出ていなかったの。強いて挙げれば、(ドイツ4部リーグに所属する)U23チームでの出場が多かったですが、そこで2試合連続で決めたフリーキックですかね。

「大事なゴールだったかな(原口)」



「やはりドイツでのサッカーの価値って高いんだな、と(宇佐美)」

「メンバーとして経験できたことは良かった(金城)」

「とにかくサッカーを楽しめた(原口)」

最後に今シーズンを振り返って一言ずつ。

T: 達成感があります。2部とは言え、ドイツに来て1つの大きな目標を達成できたことと、その目標に向けて戦うチームの一喜一憂感というか、そういうものを経験できたのは良かったです。(アウエーで)昇格を決めてデュッセルドルフに戻って来たとき、サポーターたちが空港で盛大に出迎えてくれたのを見たとき、やはりドイツでのサッカーの価値ってすごく高いんだなと改めて思いました。

J: 1部昇格をチームのメンバーとして味わえたのは良かったですし、そんな経験をドイツでできている日本人選手は決して多くないと思うので、それは嬉しいことです。でもやはり(試合に出場する機会がなくて)何もできなかったのが、悔しかったというのが正直な気持ちです。

G: 俺にとってはとにかくサッカーを楽しめたのが一番大きかったです。W杯を控えている中で、試合に出なくちゃいけないのにヘルタ(ベルリン)ではなかなか難しく、サッカーとしても窮屈さを感じてやっていたので、フォルトウナに来てサ

ッカーに対する楽しさとか喜びを味わいながら、チームとして昇格に向けて戦えたというこの半年は、本当にここに来て間違っていなかったなというか、自分の判断が正しかったと言える半年だったと思います。とにかく毎試合毎試合楽しくできたし、それぞれが思い出に残っています。チームとして1試合ずつ勝利を重ねて昇格に近づいていく感覚はとても新鮮だったし、最終的にもきちんと昇格を果たせましたし。あとはこれがちゃんとW杯へつながってくれば、自分にとってはベストな選択だったと誇れるかなと思います。



公私ともに仲が良く、チームにも良い雰囲気をもたらしていた3人。この対談からもその一部を垣間見ることができた。お互いを尊敬し合い、そして高め合いながら、その中で自分の目標や成長をしっかりと考えて日々努力しているプロサッカー選手たち。彼らのこれからの更なる飛躍を心から期待したい。

*インタビュー: フォルトウナ日本デスク・瀬田

市庁舎で優勝&昇格報告パーティー

Aufstiegsfeier am Düsseldorfer Rathaus



最終戦が行われた翌日の5月14日(月)、今シーズンのブンデスリーガ2部優勝を果たしたフォルトウナは、デュッセルドルフ市庁舎で行われた優勝&昇格報告イベントに参加し、トーマス・ガイゼル市長と市庁舎前広場に集まった1万5千人を超えるファンと共に、その喜びを分かち合った。

ラストミニッツゴールで大逆転勝利を収め、2部リーグ王者の称号を手にもニルンベルクから戻ってきたフォルトウナのトップチームは、その翌日にデュッセルドルフ市庁舎で行われた優勝&昇格報告イベントに参加することに。まず ESPRITアリーナ駅に集合した選手たちは、昇格を記念したデザインが施された地下鉄U78に乗り込み、市庁舎を目指すこととなった。そして数台のワゴン車に乗り換え

て市庁舎に到着すると、まずはトーマス・ガイゼル市長に優勝&昇格を報告。市長からは祝福と労いの言葉をかけられ、その後は“昇格チーム”としての帳簿にトップチーム全員がサインする儀式も行われた。

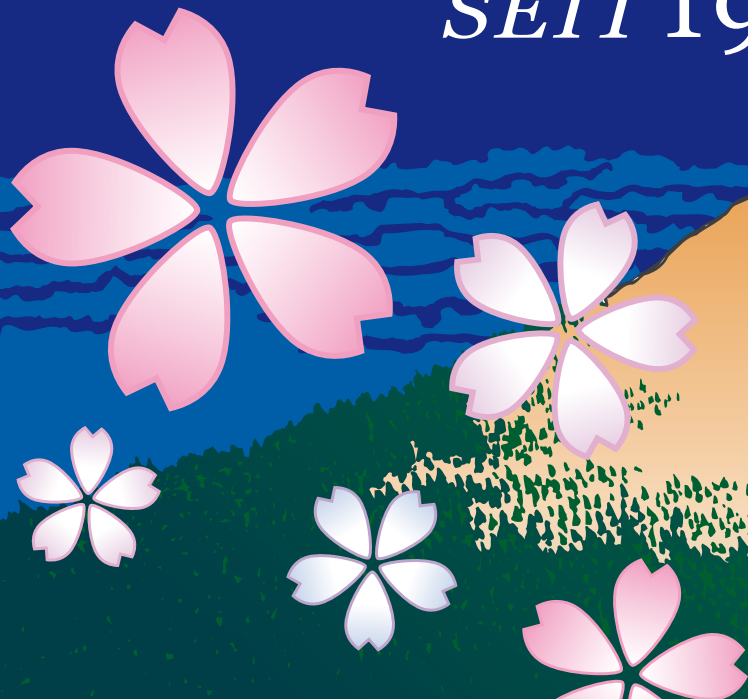
そしてその後、この日のために作られた特設ステージに選手たちが登場すると、市庁舎前広場に集まった1万5千人を超えるファンたちのボルテージも最高潮に。キャプ

テンのオリバー・フィンクが改めて2部優勝&1部昇格を報告すると共に、チーム全員で優勝のシャールを掲げ、その喜びを分かち合った。

最後は今シーズンいっぱいクラブを去る選手たちのためのセレモニーも行われ、契約満了となる金城ジャスティン俊樹に加え、レンタル期間が満了となった原口元気、宇佐美貴史の日本人トリオらへも花束と記念品が贈呈された。

SUSHI KIKAKU

SEIT 1975



フォルトゥナ
1部昇格おめでとう!!

Restaurant KIKAKU

Klosterstraße 38, 40211 Düsseldorf

Tel: 0211 357853

www.kikaku.de

offset cmyk

dtp proof schmuckfarben
photoshop fünf+lack FSC illustrator

prepress scannen bogen
falzen kreuzbruch

nutzen einfarbig indesign
vierfarbig kleben quark

klimaneutral retusche
klammern ctp andruck

digitaldruck

CLASENI GmbH
ihr printmedienpartner in düsseldorf



Geschäftsführung: Michael Klein & Achim Krause

spielberger weg 66 • 40474 düsseldorf • fon 0211-447290-0 • fax 0211-447290-60 • mail@druckerei-clasen.de

Ihr Nr. 1-Partner für Werbeagenturen + Industriekunden

THE FUTURE OF CITIES IS OPEN TO SUGGESTIONS

街の未来は、オープンだ。
アイデアで変えられる。

日々の大切な瞬間を逃すことがないように。日立は協創を通じて、誰もがもっとスムーズに移動できる都市をめざしています。日立ならではのOT(制御・運用技術)とITを生かし、IoTプラットフォームで街中のデータを分析。人やモノの動きを予測し、柔軟に変化するシステムをつくることもソリューションのひとつです。日立はさらに社会イノベーションを加速し、街の未来を、そして人々の暮らしを大きく変えていきます。

social-innovation.hitachi

Hitachi Social Innovation

